

ビワ生育情報

第 1 報
千葉県農林水産部
令和3年10月号

「楠」、「大房」、「田中」の花房発現期は平年並みです。
10月からは摘房・摘蕾を行います。適期に作業し、品質の揃った果実を生産しましょう。

【花房及び樹の発育】

花房の発現期は表1のとおりである。「楠」は9月17日で、平年より1日、前年より2日遅かった。「大房」は9月17日で、平年より2日早く、前年より6日早かった。「田中」は9月15日で、平年と同日、前年より6日遅かった。花房発現期はいずれの品種も平年並みであり、花房数はどの品種も平年並みの傾向である。

夏枝及び秋枝の発生は平年並で、樹の生育は順調である。

表1 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.17	9.16	9.15
大房	9.17	9.19	9.23
田中	9.15	9.15	9.9

平年：1991年～2019年の30年間の平均

【令和3年7～9月の気象】

令和3年7～9月の気象を表1に示した。7月の月平均気温は25.0℃で、平年より0.4℃、前年より1.1℃高かった。降水量の月合計は357mmで、平年の209%、前年の88%であった。日照時間の月合計は207時間で、平年の115%、前年の273%であった。関東甲信地方の梅雨明けは7月16日ごろで、平年より3日、前年より16日早かった。

8月の月平均気温は26.4℃で、平年より0.4℃高く、前年より0.8℃低かった。降水量の月合計は210mmで、平年の190%、前年の1,355%であった。日照時間の月合計は198時間で平年の91%、前年の66%であった。

9月の月平均気温は22.2℃で、平年より0.7℃、前年より1.7℃低かった。降水量の月合計は198mmで、平年の85%、前年の123%であった。日照時間の月合計は125時間で平年の82%、前年の91%であった。

表2 令和3年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	21.9	23.4	23.8	349	42	69	3	23	14
	2	24.7	23.4	24.6	5	41	70	14	26	8
	3	24.7	24.7	22.9	3	36	80	30	28	12
	4	26.0	24.7	22.1	0	21	156	54	30	13
	5	26.1	25.1	25.1	0	21	9	60	32	10
	6	26.1	25.9	24.8	0	23	23	46	42	19
平均/計		25.0	24.6	23.9	357	184	405	207	179	76

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8	1	27.1	26.2	25.7	0	6	0	49	37	46
	2	26.8	26.3	27.5	116	19	0	31	37	52
	3	24.7	26.3	28.4	63	19	0	9	36	58
	4	25.1	26.0	27.8	32	20	0	35	35	55
	5	26.6	26.0	26.2	0	20	8	24	34	40
	6	27.6	25.5	27.7	0	27	8	52	38	53
平均/計		26.4	26.0	27.2	210	110	16	198	218	303
9	1	21.8	24.7	27.2	54	16	34	2	30	33
	2	21.2	24.5	26.7	47	57	68	20	29	35
	3	23.2	23.5	24.6	53	25	14	15	27	18
	4	22.5	22.8	24.7	33	48	3	29	25	21
	5	23.7	21.4	20.4	3	46	33	39	22	6
	6	20.6	20.6	19.8	10	41	12	22	21	24
平均/計		22.2	22.9	23.9	198	232	161	125	153	137

表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【11月の管理】

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせた。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

10月から11月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果房率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が50～60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシはビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月にはナシなどからアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>